

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立鶴町小学校

大阪市立鶴町小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和7年度までに鶴町小学校の地盤となるべき項目を積み重ね、鶴町小学校文化を更に拡大充実させていくことを中期目標の柱とし、課題としては以下の項目が挙げられる。

【児童が安心して楽しく通える学校づくり】

近年は新型コロナウイルス感染症の影響により、短縮授業や休業となる期間が発生し、感染への不安から登校を控える児童もいた。これまでにない様々な状況の変化も一つのきっかけとなり、不登校傾向となる児童が増えたと考えられる。児童が安心して学校に通えるよう、学級活動・異学年集団活動や体験的な学習を充実させ、毎日楽しく通える学校づくりを目指す必要がある。

また、いじめアンケートの結果からは、「友達からいやなことをされる（言われる）」という回答が見られる。学校が認知した事案に対しては、担任だけではなく複数の教職員で対応し、解消を目指していく。

【学力の向上】

全国学力・学習状況調査や学力経年調査の結果を分析すると、文章を読み取ることが難しく、問題の意味を十分に理解できていないために解答できない児童も多いことも見えてきた。そのため、学力の基礎となる「文章を読み取る力」を身に着けるため、国語科の指導の工夫や言語活動の充実を図ってきた。更に、児童が主体的・対話的な学習を行えるよう、指導者の授業力向上を目指す。

低学年から外国語に親しむ時間を設定し、3年生以上における外国語の授業においては、より充実した学習となるよう、専門的な知識・技術をもつ外部人材(C-NET 含む)の活用を積極的に行う。

【体力の向上】

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に児童の体力が低下しており、回復には数年かかる見通しである。引き続き「なわとびチャレンジ」「マラソンチャレンジ」など、運動に親しむ機会を充実させ、児童の運動に対するの興味・関心を高めるとともに、目標を達成した喜びを味わえるようにする。

【ICT機器の活用】

主体的・対話的で深い学びをすすめるため、一人一台端末の積極的な活用を図る。どの教員も授業でICT機器をスムーズに活用できるよう、外部講師などによる校内研修を充実させる。

【教職員のゆとり確保】

年間を通して児童へのより良い授業・指導を行うには、教職員も時間的・精神的な余裕を持つことが必要である。そのため、教職員のゆとりの日（放課後に会議等の無い日）を設定したり、年次休暇取得を促進したりする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。
- 令和7年度の児童アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の児童アンケートにおける体験的な学習に関する問いに対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も毎年1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 令和7年度において年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合（50%）を増加させる。
- 令和7年度の児童アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の児童アンケートにおける体験的な学習に関する問いに対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も毎年1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 令和7年度において年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括（年度末に記入）

【安全・安心な教育の推進】

-
-

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

-
-

【学びを支える教育環境の充実】

-

大阪市立鶴町小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【安全・安心な教育の推進】 ○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合（50%）を増加させる。 ○令和7年度の児童アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ○令和7年度の児童アンケートにおける体験的な学習に関する問いに対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・いじめアンケートにおいて認知した事案に対して、児童への聞き取り・指導を行う。 ----- 指標 ・いじめアンケートを学期に1回実施する。 ・道徳科において、仲間づくりに関する項目の学習を年1回実施する。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・学級活動や異学年集団活動において、実施方法・内容を工夫し、交流の楽しさを感じられるようにする。 ----- 指標 ・異学年と交流する機会を学期に3回実施する。 ・全校児童が参加する「なかよし集会」を年1回実施する。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・文化や芸術、自然の素晴らしさに触れる体験的な活動を充実させ、思いやりの心や美しいものに感動する感性を育む。 ----- 指標 ・芸術や文化、自然に触れられる行事や学習を年に3回実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式2)

大阪市立鶴町小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 ・「つるまちチャレンジ」を実施し、児童の学習に対する意欲を高め、自主的に学習を進める態度と基礎的・基本的な学力の定着を図る。	
指標 ・「つるまちチャレンジ」を年2回実施する。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・「運動チャレンジ」を設定し、児童の運動に対する興味・関心を高めるとともに、目標を達成した喜びを味わえるようにする。	
指標 ・「運動チャレンジ」を年3回実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式2)

大阪市立鶴町小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕。 ○令和7年度において年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】 ・ICTの環境を整え、学習の充実に努める。(タブレット活用、オンライン学習等)	
指標 ・情報モラルについての学習を年1回行う。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・働き方改革を進め、ゆとりをもって職務に専念できるようにする。	
指標 ・教職員のゆとりの日を、週1回設定する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	